尾鷲ＦＣロータリー杯 開催

初めて地区補助金を使った奉仕活動を行いました

2017年（平成29年）8月3日 木曜日

南海日日

試合用ユニホーム寄贈

尾鷲ロータリークラブ
尾鷲サッカー少年団に

尾鷲ロータリークラブからユニホームの寄贈を受けて喜ぶ尾鷲ＦＣの選手（１日夜、旧尾鷲工業グラウンドで）

尾鷲ロータリークラブ（坪井常弘会長）主催の少年サッカー大会が5日から2日間の日程で、尾鷲高校光ケ丘グラウンドで開かれ、尾鷲フットボールクラブ（ＦＣ）が県内3クラブと熱戦を繰り広げて交流を深めた。

サッカー好きな子どもたちが集って楽しみ、交流を図ろうと、サッカー経験者が多い尾鷲ロータリークラブが3年ほど前から計画し、「尾鷲ＦＣ招待尾鷲ロータリークラブカップ少年サッカー大会」を初開催した。大会に向けて、昨年はゴール2基を尾鷲ＦＣに贈り、今年も先日、ユニホームなどを寄付した。

第1回大会はＩＦＣうりぼう95（伊賀）、国府（鈴鹿）、奥伊勢ＪＦＣ（大紀町）の小学生64人や指導者、保護者が尾鷲を訪れ、12歳以下5チームと10歳以下3チームに分かれてリーグ戦を戦った。尾鷲ＦＣは12歳以下と10歳以下でＩチームずつが出場。12歳以下では、初戦で奥伊勢ＪＦＣを12―0、2戦目で国府Ａを4―0、3戦目で国府Ｂを4―0で下したが、全勝同士の対戦となったＩＦＣうりぼうとの最終戦で2―3と惜敗し、3勝1敗の2位となった。10歳以下は、奥伊勢ＪＦＣを6―1で破ったものの、国府に0―5で敗れ、1勝1敗でこちらも2位だった。

子どもたちの試合のほかにも、市内在住の元プロサッカー選手、上條泰行さんのサッカー教室や保護者対抗ＰＫ大会、尾鷲ＦＣとＩＦＣうりぼうの合同チームと各チームの指導者チームの試合があった。また、5日夜にはホームステイで滞在中の子どもたちをおわせ港まつりに案内するなど、試合外でも交流を深めた。

試合の結果は12歳以下でＩＦＣうりぼう、10歳以下で国府が優勝し、閉会式で両チームにトロフィーが授与されたほか、優勝チームから最優秀選手2人、それ以外のチームから優秀選手1人ずつが選ばれ、計6人にメダルが贈られた。尾鷲ＦＣからは12歳以下で引本小5年の川口大和君、10歳以下で尾鷲小4年の大西拓翔君が選ばれた。

坪井会長は「雨が心配されたが、皆さんの日頃の練習の成果を見たかったのか、天気も味方をしてくれたのだと思う。サッカーはチームワークのスポーツなので、これからも思いやりの心を大切にしながら練習に励んでほしい」と語りかけ「ぜひ、また尾鷲に来てください」と呼びかけた。

尾鷲ＦＣの主将で尾鷲高校グラウンドに真新しいユニホームを手に大喜び。主将で尾鷲小6年の岩田翔暉君（12）は「このユニホームを着てロータリーカップで優勝します」と力を込め、片桐監督（47）は「昨年のゴールポストに続き大変感謝している。子どもたちには試合で結果を出して恩返しできるよう頑張ってもらいたい」と話した。

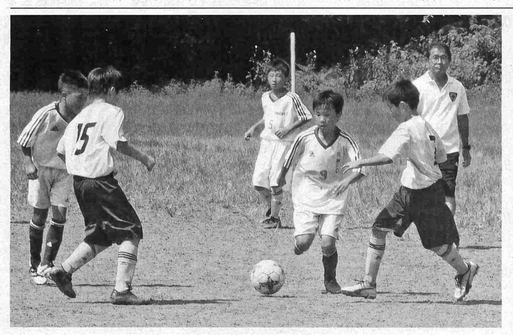
同少年団の5、6年生は、同グラウンドで5、6日に開催される第1回尾鷲ロータリークラブカップ少年サッカー大会に新ユニホームで出場する。

同クラブは1975（昭和50）年2月に創設。尾鷲中学校出前授業や中高生と連携したポリオ撲滅寄付活動、市内の清掃奉仕など地域貢献活動を展開して

紀勢新聞 平成29年（2017年）8月9日（水曜日）（日曜・祝日翌日休刊） 日刊

ほかのチームとも仲間に

尾鷲ＦＣ ロータリー杯で交流



ＩＦＳうりぼうと熱戦を繰り広げた尾鷲ＦＣ

尾鷲ロータリークラブ